

鉏路市教育委員会 令和3年第10回6月定例会会議録

- 1 日時：令和3年6月29日（火）13時30分から14時45分まで
- 2 会場：MOO 5階 臨時会議室
- 3 出席者  
岡部義孝教育長  
（教育委員）  
山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員  
（事務局）  
大坪学校教育部長、津田生涯学習部長、大山教育指導参事、三富学校教育部次長、  
早坂学校教育部次長、工藤生涯学習部次長、森教育政策主幹、富田総括指導主事、  
澤口生涯学習課長、
- 4 議事録署名人 松尾委員、種村委員
- 5 傍聴人数 0人
- 6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- (1) 令和3年第3回鉏路市議会6月定例会の議決結果について
- (2) 令和3年第3回鉏路市議会6月定例会の審議内容について
- (3) 第1回鉏路市立小中学校のあり方検討委員会の開催について
- (4) 鉏路市GIGAスクールサポーター配置業務委託について
- (5) 2021「くしろ20歳のつどい」について
- (6) 「第4回タンチョウリーグ」の開催について
- (7) 学校の現状について

## 7 会議内容

### 【公開案件】報告事項

- (1) 令和3年第3回鉏路市議会6月定例会の議決結果について
- (2) 令和3年第3回鉏路市議会6月定例会の審議内容について

#### (三富学校教育部長)

令和3年度第3回鉏路市議会6月定例会の議決結果について報告する。

先月の定例教育委員会においてご承認いただいた2件の補正予算案、及び土地取得の件の議案については、すべて原案どおり可決されたことを報告する。

あわせて、陳情第2号で、東京オリンピック・パラリンピックの開催を中止することを求める意見書が提出され、生涯学習部スポーツ課所管の委員会にて審議を行い、本会議での採決の結果、賛成少数で不採択となった。

#### (大坪学校教育部長)

令和3年第3回鉏路市議会6月定例会の学校教育部に関する一般質問の概略を説明する。

公明党議員団 松原慶子議員より、がん予防の専門的知識を有する外部講師を活用した実績について質問があり、私から、地域がん診療連携拠点病院である市立鉏路総合病院と鉏路労災病院より専門の看護師、保健所から専門の知識を有する保健師を招いてがん教室を開催しており、今後の取り組みも広めていきたいとお答えした。

次に、市民連合議員団 板谷昌慶議員より、小学生の自転車安全利用5則の指導状況について質問があり、私から、週末や夏休み前の朝の会や帰りの会の時間を活用して、交通ルールを守る重要性について説明しているとお答えした。

次に、日本共産党議員団 西村雅人議員より、PTA会費とクラブ活動費について、就学援助の対象とならないか質問があり、私から、クラブ活動費については教育課程外の活動であり、児童生徒はあくまでも任意参加、PTA会費についても教育活動の位置づけではないため、共に就学援助の対象ではないと判断しているとお答えした。

次に、公明党議員団 河合初恵議員より、性差のない制服の導入やリユースの検討を行ったことがあるかという質問があり、私から、リユースについては現在検討はしてないが、保護者の負担軽減の面から他都市の取り組みについて研究し、標準服の導入については、現在校長会を通じて性差のない制服の検討について依頼しているので、その結果を踏まえて検討していきたいとお答えした。

次に、市民連合議員団 宮田団議員より、生理の貧困問題について困難に直面する子どもへの対応について質問があり、私から、教員や養護教諭による児童生徒への細やかな観察や声かけによる環境づくり、学校現場とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどが連携して子どものケアに取り組んでいるとお答えした。

次に、日本共産党議員団 工藤正志議員より、生理の貧困問題について学校のトイレに生理用品を配置できないかという質問があり、私から、貧困問題については様々な要因があり、物資の提供だけでは解決するものではないことと、福祉や医療など関係機関と連携を取りながら児童生徒の相談に真摯に寄り添った対応をとっていくとお答えした。あわせて、総合政策部から国の「地域女性活躍推進

交付金」を利用して、生理用品に相談窓口の連絡先をシールで貼ったものを保健室に配置して周知することもお答えした。

最後に、公明党議員団 秋田慎一議員より、成年年齢の引下げについて教育長の率直な感想と具体的な対応について質問があり、教育長より、年齢の引き下げについては、将来を担う若者たちに早い段階で大人としての責任を与え自覚を促すことで、より積極的な社会参加を進めるといった点で意義を持つものであるとお答えした。具体例では北陽高校において1年生の家庭科の授業で消費者庁にて作成している「社会への扉」という教材を利用して、契約やクレジットカードの仕組み、相談窓口としての消費生活センターの役割などを履修する機会を設けている。市内の小中学校においても、家庭科の授業でお金の管理や契約行為などについて取り上げている。今後もそれぞれの発達段階に応じた消費者教育の充実を図っていくとお答えした。

(津田生涯学習部長)

令和3年第3回釧路市議会6月定例会の生涯学習部に関する一般質問の概略を説明する。

公明党議員団 松原慶子議員より、スポーツ振興と環境整備について、釧路市民サッカー場に人工芝を敷いて、よりサッカーをしやすい環境を整えてることができないかご質問があり、私より、令和元年に釧路サッカー協会要望があった際、整備費として6億円という額が示されことを説明した上で、国の補助制度が見つかりにくいこと、ランニングコストのかかり方や負担のあり方など、様々な課題があり、当面整備については難しく、要望の主旨を踏まえながらサッカー協会と協議を重ねていきたい旨お答えした。

次に、日本共産党議員団 工藤正志議員より、新型コロナウイルス感染症対策のとして、東京オリンピックの開催について、きっぱりと「中止」又は「延期」すべきと考えるが、市長の認識について質問があり、市長より、主催者であるIOC、IOCと開催都市契約を締結している、東京都並びに大会組織委員会、国が適切に判断されるものと認識している旨お答えした。

次に、自民市政クラブ 草島守之議員より、冬季スポーツ振興における「氷都くしろ」が目指す姿として、次代を担う有力選手の発掘・育成・強化について、その体制と練習施設の環境は整っているのかのご質問があり、私より、特に小学生のアイスホッケー競技人口は、10年前に比べても競技人口が40%減となっており、次世代を担う育成に課題がある一方で、4カ所ある屋内スケートリンクの練習環境を活かした活躍がみられ、通年でリンクを使用できるという恵まれた環境などの強みを十分に生かしながら関係団体や民間とも連携を図り、これらの課題解決に対応してまいりたい旨お答えした。

次に、2020年7月に釧路スケート連盟と釧路市スポーツ協会から釧路市柳町スピードスケート場屋内化構想概要版が示されたが、その後の動向について質問があり、私から、ランニングコストの削減が課題であると双方で認識しており、引き続き、釧路市スポーツ協会や釧路スケート連盟と意見交換をしてまいりたい旨、お答えした。

次に、「氷都くしろ」を担う競技として、確認の質問があり、私より、スピードスケート、アイスホッケー、フィギュアスケート、スケート全体が「氷都くしろ」の確固たる位置づけにあると考えている旨お答えした。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

ジェンダー平等として、制服のあり方について検討してはどうかという質問が出されているが、確かにスラックス着用について検討している学校はあるようだが、制服は各学校単位で検討して決定していくものであるが、ジェンダー平等で制服を考えた場合は、校長会と協議しながら制服メーカーへの働きかけも必要になるのかと感じた。

#### 【公開案件】報告事項

(3) 第1回釧路市立小中学校のあり方検討委員会の開催について

(森教育政策主幹)

6月2日に第1回目の委員会を開催し、委員14名に委嘱状を交付した。

協議事項として、委員長、副委員長の選任を実施し、委員長には北海道教育大学釧路校キャンパス長の浅利委員、副委員長は釧路市連合町内会の富樫委員に決定した。

その後、これまでの取り組みとして平成13年度に作成した適正配置計画の概要、現在の学校数、児童生徒数、釧路市立学校施設長寿命化計画の概要について報告した。

数名の委員から、学校教育に対して「これからどのような学校作りをしていくかの視点で特色ある学校作りを考える必要がある」、「統廃合が前提にありきというより、求められている特色ある学校というところでは、小中一貫教育や義務教育学校という新しい学校の特性が地域に合っているかという視点も考えなければいけない」、「児童生徒数が減っていく地域では、学校の空き教室が目立っており、有効活用について考える部分がある」などの思いやご意見を頂いた。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

今の報告で、校舎の大きさに対して、児童生徒数が減り空き教室が増えてきている中で、有効活用についても検討課題だということであったが、そのような検討を前向きに進めるのであれば、教育委員会だけではなく、市役所との連携の必要性も感じた。例えば、空き教室に違う施設を併設しはどうかなど複合的な活用について考えた時に、こども保健部などとの連携も出てくる気がするので、視野に入れておいてほしい。

(岡部教育長)

議会の中でも、放課後児童クラブに校舎を利用できないかという質問や議論はすでにある一方、特別支援の増加に伴い、余裕のある教室があまりないという印象もあるので、それらを含めた議論を進めていく必要である。

(松尾委員)

教育長が言われたとおり、私も現状を見る限り空き教室は少ないと思っている。特別支援の増加や

教室の活用状況の変化で余裕はないと思うが、今後は地域との関わりも必要になってくるので、活動場所の提供などの協議の際は対応してもらいたい。

【公開案件】 報告事項

(4) G I G Aスクールサポーター配置業務委託について

(早坂学校教育部長)

5月25日から行ってきた第1回目の研修について、6月25日をもって終了した。多くの学校が研修項目のA、B、Cの3つのメニューを90分の研修時間で行った。

鳥取西小学校での研修でも90分で3つのメニューを受講し、教頭以下36名ほぼすべての教員が参加し、教員の同士で教えあいながら受講しており、学校一丸となって積極的に取り組んでいる印象を受けた。

第2回学校訪問研修は6月28日～7月30日の期間で、第1回の基本的な内容のA・B・Cのほか、D～Hの新たな研修項目を設定し、各校で受講項目を選択して研修を行うことになる。第1回目の内容に比べて発展的、実践的なもので、授業で活用するためのアンケート作成ソフト、Web会議ソフト、端末をホワイトボードのようにペンで字を書き、付箋や写真を貼り付けることができるアプリについてなど、手法やテクニックについて研修を行う。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

端末を子どもたちへ貸与し、自宅でも学習活動ができるようになったが、不登校の子どもたちも教室には行けないけども端末を介して授業に参加することができる。したがって、「あおぞら」「さわやか」「ふれあい」などでも利用することが予想されるが、「ふれあい」を担当している退職教員なども研修に参加できることを検討していただきたい。

(早坂学校教育部長)

現在の研修は学校毎で行っているため、研究センターの職員は対象となっていないが、第2回目の研修については、学校の許可を得ながら対応していきたい。

(種村委員)

研修がかなり幅広い範囲になっているが、例えばWeb会議ソフトの場合、中学校ではどのように使われているのか。

(早坂学校教育部長)

先日開催したキャリアシンポジウムなどで使用しており、学校毎や学級毎で使用している。

(種村委員)

将来的に企業説明会などでも使うことがあるので、中学生のうちから使えることは社会に出てから役に立つものになる。

(早坂学校教育部長)

今後このような機能を使うことを考えると、慣れ親しむことは必要なことだと思う。

(種村委員)

先日のシンポジウムのように、J Cと組んで企業を知るツールとして活用できると考えるが。

(早坂学校教育部長)

今は直接会社を訪問して仕事を見るのが難しいため、経営者と中学生をWeb会議ソフト介して意見交換などを行うことは、有効的な使い方と思うので検討していきたい。

(松尾委員)

学校では家に持ち帰る作業が始まってきたと思うが、Wi-Fiの環境が整っている家庭の割合はどの程度か。あわせて、保護者が端末を接続する作業に苦勞しているようだが、保護者向けの研修などについて考えているのか。

(富田総括指導主事)

家庭の環境整備については約9割程度つながる状況となっているが、テザリングなどで接続している家庭もあるので、接続方法なども含めて持ち帰りに向けて各学校で再調査を行っている。また、持ち帰りについては、何をどうするかという目的を明確にする必要があり、今行っている持ち帰りは緊急時に接続できるかの確認が第一であり、まずは学校内でどう使うかを各校検討していただきたいと思っている。

(松尾委員)

学年が上がると色々な使い方ができると思うが、子どもがやっていることを傍で見てあげることも大切だと思うので、やはり保護者への研修指導があると良いと思う。

(大山教育指導参事)

参観日などの機会を利用して実施できないか検討していきたい。

## 【公開案件】報告事項

### (5) 2021「くしろ20歳のつどい」について

(澤口生涯学習学習課長)

1月の定例教育委員会において令和3年8月14日(土)に延期する旨、報告していたが、その後も新型コロナウイルス感染状況が変化しており、先行きが不透明な状況であるが、新成人の方々にとって一生に一度の式典を実施するため、新たに取り組む内容について説明する。

開催日時は、8月14日土曜日午後3時からで、これまで釧路地区はコーチャンフォー釧路文化ホールの1会場において、大ホール、小ホール、展示ホールに分かれて開催することで進めていたが、新たに釧路市生涯学習センター、湿原の風アリーナ釧路を加えた3会場とし、1会場に集中することのないよう、住所を基に中学校区に会場を振り分け、最大でも1会場で500人以下になるよう感染リスクの分散を図り、阿寒地区1会場、音別地区1会場を含め5会場で開催する。

式典内容は、各会場をオンラインで結び、市長からのお祝いメッセージのほか新成人代表による20歳のメッセージ、ゲストによるオンラインメッセージなどにより、式典時間を概ね30分程度に短縮して実施する。

次に、新型コロナウイルス感染症対策においては、マスク着用、検温、換気、消毒などガイドラインの遵守や国の接触確認アプリの活用などに加えて、当日参加できない新成人のため、式典の様子をユーチューブにより生配信するほか、新たに、参加者全員に抗原検査キットを事前配布する。

検査キットは令和3年度新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金を活用するものであり、参加当日に各自検査を行い、陰性判定の結果を写真に記録して会場の入口で提示してもらう。これは、これまでの参加状況で、市外からの参加者が概ね半数を占めることが推測されることから、より安心して参加してもらう対応である。

釧路保健所とも最終確認を行った上で、対象者へ7月中に実施要領などを明記した案内状を発送する予定である。引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に取り組んだ中で、一生に一度の成人式が実施できるようしっかりと準備を進めてまいりたい。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(小出委員)

20歳の集いを開催できることは、新成人の人々も楽しみにしているので良かったと思うが、中学校区で会場分けをするということだが、大半は高校の同級生と一緒にいきたい人が多いと思うが、違う会場に行った場合の対応はあるのか。

(澤口生涯学習課長)

各会場の座席数には余裕を持たせているので、対応はできると考えている。

(岡部教育長)

そのような思いもあるが、今回の対応の主旨は、密になることを避ける対応である。

(津田生涯学習部長)

成人式を実施している自治体の多くが分散開催をしており、分け方はほぼ中学校区となっている事例を参考にしながら、この式典を行うことができるよう理解を得ながら進めていきたい。

(山口委員)

会場が分散されると人員の対応も増えるので、教育委員会だけではなく、他部署の応援も視野に入れて素晴らしい式典を開催してもらいたい。

(松尾委員)

8月に延期した自治体が多かったと思うが、5月に実施した自治体の状況はどうだったのか。

(澤口生涯学習課長)

道内は5月に延期する自治体が多かったが、再延期しているところが多く、実施したのは根室市、岩見沢市、千歳市、江別市などとなっている。根室市に確認したところ、例年の半数程度の参加であった。根室市は市全体で抗原検査を行っているので、参加者は全員検査した上で参加している。

また、千歳市などは会場を分散して開催し、その後クラスターなどの発生は無かったと聞いている。

(山口委員)

こういう時期なので、開催への懸念材料はたくさんあると思うが、新成人として人生の節目をお祝いしたい思いを新成人に受け止めてもらい、万全の体制で開催しなければならない現状も理解しても

らえるようなものであってほしい。

(岡部教育長)

そのような思いを伝えるために、案内の中に当日の夜に大人数での会食をしないようお願いする文章を入れて注意喚起してほしい。

#### 【公開案件】報告事項

##### (6)「第4回タンチョウリーグ」の開催について

(工藤生涯学習部次長)

ウインドヒルひがし北海道スタジアム(釧路市民球場)の大規模改修工事が終了したことを契機として、平成29年から始まった「タンチョウリーグ」が、本年は8月9日から20日までの日程で開催される予定である。

この「タンチョウリーグ」は亜細亜大学硬式野球部が中心となり、強豪社会人チームや道内外の大学チームのほか、プロ野球の3軍も参加する全国でも注目を集める取り組みとなっており、参加する選手から、毎年多くのプロ野球選手が生まれております。

この度の「第4回タンチョウリーグ」では、昨年の第91回都市対抗野球大会で優勝したホンダや、今年の第70回全日本大学野球選手権大会で優勝した慶応義塾大学、福岡ソフトバンクホークス3軍など15チームが参加し、ウインドヒルひがし北海道スタジアムと帯広の森野球場を会場に試合が行われます。

今年からの新しい取り組みとして、釧路市で開催される17試合について、亜細亜大学が所有するリモート中継システムを使用して、インターネット中継で全国の野球ファンに無料配信することとしており、イニング間では釧路をPRする応援動画の配信も予定しており、冷涼な気候や自然豊かな環境が全国に配信されることで、観光振興に繋がるものと考えている。

また、新型コロナウイルス感染症の予防対策を徹底した上で、すべての試合は有観客、無料での開催予定である。

◎この報告について、各委員からの発言なし。

#### 【公開案件】報告事項

##### (7)学校の現状について

(大山教育指導参事)

15日(火)に鳥取西中学校が管理職不在の中、校長会と教頭会から応援をお願いしての再開になった。改めて迅速に対応いただいた校長会に感謝を申し上げる。教育長も9日の3年生の登校に合わせて学校を訪問し、先生方に感謝と励ましの言葉を伝えている。今後も、職員室の感染予防と教職員の毎朝の検温の実施、風邪症状や熱がある場合は休むことの徹底をお願いしている。

校長会と市教委との意見交換会が終了した。校長会の意見を市の予算要望に反映させるために初め



て5月実施になった。市教委からも意見や質問が出され有意義な会になりました。出された要望についてはできる限り予算要望に組み込みたいと考えている。

教育長の学校訪問は7月中に終了予定である。また、市教委が実施している1次訪問や数学の授業参観、平木先生の外国語科の授業参観など順調に進んでおり、平木先生には「毎回楽しく参観させていただいています」と報告を受けている。

昨年度に比べて、教室環境や板書など、釧路市が目指す授業について教員と共有していただいている学校が多くなったと感じている。加えて、タブレット端末の活用なども試行錯誤しながら進めている教員の姿も見せていただいた。今後は、釧路市が目指す授業について、すべての学校で教員と共有できるように働きかけを続けていきたいと考えている。

全国学力・学習状況調査が終了した。現在、自校採点を市教委で集計している。また、来年度は「理科」が加わる年になるため準備をお願いした。特に、理科専科教員が入っている学校にはそのことを伝えるようお願いした。

タブレット端末の活用について、「不具合の対応について」「破損の対応」「活用の優先順」についてまとめた。また、6月から試行する家庭への持ち帰りの目的は「家庭の通信環境の確認」と「家庭学習での活用の可能性を探る」ことであるが、実際にやってみないと課題が見えてこないなので、各学校には課題を市教委に報告を上げていただくようお願いした。

学力向上推進委員会では、クラスルームの中で各委員が授業動画を公開して意見交換を行い、また、初任段階教員に向けた動画配信を始めており、管理職には初任者と一緒に授業動画を見て指導したり、校内のメンター研修でベテランの先生と一緒に見たりして活用するようお願いしている。加えて、初任段階教員であっても、自ら動画を撮影して自分で見ると自分の課題がわかるので勧めるよう依頼し、近い将来授業動画を公開して意見をもらえるような教員になってほしいと伝えた。

その他の連絡事項として、昨日、中学校1年生を対象としたキャリアシンポジウム「ふるさと釧路で働くということ」をネット配信で開催しました。初めての取り組みということで、冒頭でトラブルが発生したが、その後は予定の内容で進行し、最後は多くの学校から質問が出されました。生徒も真剣に参加しており、特にリアルタイムに質問に答える場面では、もっと自分たちも質問したい流れになっていた。協力していただいた釧路青年会議所の理事長をはじめ、多くの皆様に感謝申し上げます。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

学力向上推進委員会について、非常に順調にスタートしてしていると理解しているが、創生は安し守成は難しという言葉もあるので、息切れしないで更に発展させていって欲しいと思うので、委員会の教員だけの努力だけではなく、周りからのフォローも必要で大事に育てていただきたい。

昨日のキャリアシンポジウムをリモートで拝見させていただき、最初の取り組みとしては大成功だったと感じている。これまで教育長の思いや考え方を直接子どもたちに伝える機会は無かった。これからもキャリア教育に限らず、ITを活用した取り組みを充実させていただきたい。

(小出委員)

これまでのキャリア教育は漠然としていて、何のためにするのか、どういう教育なのか分かりづらかったが、昨日のシンポジウムでの教育長のお話を教員や生徒と一緒に共有できたことが良かったが、保護者も共有できるともっと良かったと思える内容だった。激しく移り変わるこの時代、子どもの将来が見えない不安を持っている保護者も多くいる中で、共有することで不安が少しでも解消され、子どもとの関わり方が変わると思うので、このような機会を保護者とも持てるようにして欲しい。

中学1年生は仕事をしてお金を稼ぐということがまだピンときていないと思うので、2年生になって職場体験を行う前にこのような考え方に触れることができると、ただ楽しい職場体験ではなく、違った目線で考えて取り組むことができると思う。

(岡部教育長)

一定期間閲覧可能であるので、保護者に対して周知してしていきたい。

(種村委員)

1年生約千人を対象に話している中で感じたことは、当事者意識を持たせていることで、将来自分達の半数が100歳を超えることや、自分が働く時には今の仕事の6割の職業が変わっているなどの話は切実な受け止めをしたと思う。結果、生徒から熱心な質問が出され、将来を考えるきっかけになっていると感じた。J Cの理事長からも、釧路で働けない職業は無いという話もあり、学校と社会をうまくマッチングしたシンポジウムだったという印象を受けた。

(松尾委員)

今後はキャリア教育に限らず色々なことがリモートでできると思った。

昨日のシンポジウムを見て、喋り方がちょっとかたく、もう少し話しかける感じで子どもたちがリラックスする雰囲気があれば良いと感じた。

(岡部教育長)

私がかたいと思ったが、内容が生徒の方には楽しい話ではなく衝撃的なものになるということで、あのような話し方をさせていただいた。その結果、何百という質問が来ているようなので文書できちんと回答していきたい。